



国立公園等の魅力向上に向けた取組

2024年4月17日

環境省

国立公園における滞在体験の魅力向上事業

- インバウンド再開を見据え、国立公園の利用の高付加価値化に向けて、民間活用による国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組み、美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光の推進を図る。
- 昨年8月に選定した4つの国立公園において検討を進め、3月には、集中的に取り組む利用拠点の第一弾として、十和田八幡平国立公園の休屋・休平地区を選定。今後、具体的取組を加速。

十和田八幡平国立公園休屋・休平地区における取組

(イメージ図)

民間の発想を活かした滞在体験の魅力向上をパッケージで実施



中部山岳、大山隠岐、やんばる国立公園についても、検討を深め利用拠点を順次選定予定

国立公園におけるオーバーツーリズム対策（富士山）

- 富士山については、「富士山における適正利用推進協議会」において、「富士登山におけるオーバーツーリズム対策パッケージ」をとりまとめ（令和6年3月28日）
- 協議会構成機関・団体が一体となってこの夏から5年間で集中的に取組を行い、満足度の高い、快適な利用環境を実現し、オーバーツーリズムの解消を目指す。

富士登山オーバーツーリズムの課題と対策（2024シーズン）

I 混雑の偏りによる利用者満足度の低下

混雑の偏りの解消

- 情報発信
→各主体のHP等で情報発信により、登山者の自発的混雑回避を促進
- 山梨県条例による取組（吉田ルート）
→ゲートを設置し、時間帯（16時～翌3時）又は上限人数（4,000人）により通行禁止措置
→通行料2,000円／人を徴収
- web事前登録システムの社会実験（須走、御殿場及び富士宮ルート）
→登山情報の事前登録等の社会実験を実施
- 富士山麓への誘客促進
→山麓の登山道やロングトレイルの魅力発信・向上、見る楽しむ利用の提案
- 老朽化施設等の改善及び快適性の向上
- 利用適正化に関する法的枠組み活用を検討
→自然公園法を始めとする規制等の勉強会を開始

II 危険にもなり得る弾丸登山等を行うことによる周囲への迷惑

弾丸登山等の抑制

- 情報発信
→各主体のHP等で弾丸登山等の危険性を発信し、登山者の自発的抑制を促進
- 山梨県条例による取組（吉田ルート）
→安全誘導員やガイド等に指導権限を付与し、注意喚起を実施
- 現地における弾丸登山の自粛要請（須走、御殿場及び富士宮ルート）
→シャトルバス乗換駐車場等に係員を配置し、16時以降、宿泊予約のない方へ登山自粛を呼び掛け
- 八合目救護所設置期間の延長・拡充

III ルール・マナー違反による周囲への迷惑

ルール・マナー違反の抑制

- 情報発信
→各主体のHPやチラシ等で富士登山におけるルール・マナーを分かりやすく発信し、登山者の行動変容を促進
- マナー等に関する事前学習（須走、御殿場及び富士宮ルート）
→マナー等の事前学習機能を備えたweb登録システムの社会実験を実施
- トイレでの啓発
→禁止事項を多言語やピクトグラムで表示
- ゴミのポイ捨て・発生抑制
→ポイ捨ての実態調査やゴミ発生状況の調査

フォローアップ

R6.3.28協議会

パッケージの決定

対策の実施

R6秋頃 協議会

対策の報告・評価

R7.3 協議会

R7シーズンの対策の決定

以降、R11まで
PDCAサイクルで
対策を改善

【参考1】富士山における適正利用推進協議会

構成機関 文化庁、林野庁、国土交通省（地方整備局、運輸局）、環境省、防衛省、山梨県、静岡県、関係市町村地域関係団体等（神社、観光協会、登山組合、山岳連盟、富士急行株式会社、道路公社等）
（事務局）環境省、山梨県、静岡県

国内外で注目が集まっているロングトレイルの活用

大きなポテンシャルがあるロングトレイル

東海自然歩道をはじめとするロングトレイルは、これまで十分に利活用がされてこなかったが、コロナ後のアクティビティとして、**東北の「みちのく潮風トレイル」に海外から注目が集まっている**※。

※この数ヶ月間にニューヨークタイムズ、ウォールストリートジャーナル等の海外有名メディアが報道し、英紙The TIMESは日本で訪れるべき場所14選の4番目に選出。

ロングトレイルは、国内外で関心が高まる**アドベンチャートラベルの優良事例**として、**地域への経済効果**も期待でき、**大きなポテンシャルのある「眠れる地域自然観光資源」**とも呼べるもの。

2024年はロングトレイルのメモリアルイヤー



- ・みちのく潮風トレイルの開通5周年（2024年6月）
- ・長距離自然歩道の第一号である東海自然歩道の開通50周年（2024年7月）等



東海自然歩道をはじめロングトレイルの利活用を促進



この機会を捉え、**自然・歴史・文化とのふれあいの推進だけでなく、地域活性化や交流人口の創出、健康増進やウェルビーイングにも資する**ロングトレイルのうち、まずは大都市圏に近い**東海自然歩道**について、**国・沿線自治体・大手と地元企業、ハイカーが一体となって、利活用の促進と管理運営体制の構築**を図る(**東海自然歩道リバイバルプラン**)。さらに、**他のロングトレイルへの拡大**を通じて、**人間性の回復**や「**長く歩く旅**」の浸透を目指す。

利活用の促進

- 6/8 みちのく潮風トレイル5周年記念式典（岩手県・宮古市）
※5月-11月に青森・岩手・宮城・福島の沿線4県でウォーキングイベントを開催
- 7/13 東海自然歩道50周年記念式典（日比谷）
- 9/3 ロングトレイルミーティング2024（大手町）※読売新聞主催、環境省共催
- その他、利用人数の把握、マップ作成、英語表記の充実、内外への情報発信等

管理運営体制の構築

- ・沿線都府県・市町村の巻き込み
- ・自治体や民間団体主体による管理運営体制の構築
- ・企業によるサポーターズ制度の創設
- ・基本計画等の策定、一元的な利用情報の集約 等